

平成 20 年度中間決算概要および資本政策について

主要計数

【P/L関連】

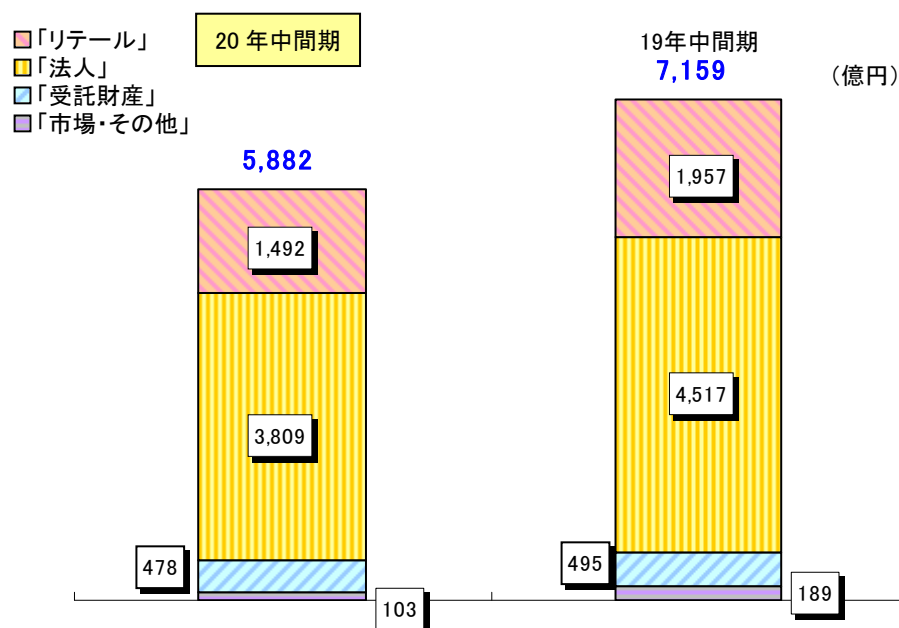
(単位:億円)	20 年中間期	19 年中間期	増減
連結中間純利益	920	2,567	△1,646
与信関係費用総額	△3,349	△2,674	△674
株式等関係損益	△752	544	△1,297
株式等償却	△1,452	△450	△1,002

【B/S関連】

	20 年中間期末	19 年度末	増減
連結自己資本比率(速報値)	10.55%	11.19%	△0.64%
Tier I 比率	7.63%	7.60%	0.02%
開示債権比率(2行合算)	1.28%	1.15%	0.13%

営業純益の状況

海外貸出の伸張により、海外収益は堅調に推移したものの、リテール向け運用商品販売収益や法人向けデリバティブ販売収益の減少、市場関連収益の減少等により、各部門とも前年同期比で減益となりました。



営業純益…内部取引消去等連結調整前の管理ベースの連結業務純益

平成 20 年度中間決算概要および資本政策について

20 年度業績予想

(億円)	20 年度予想	中間期実績	19 年度実績	中間期実績
連結経常利益	6,000	1,881	10,290	4,975
連結当期(中間)純利益	2,200	920	6,366	2,567
普通株式配当/株	年間 14 円	中間 7 円	年間 14 円	中間 7 円

資本政策について

◇ 自己資本の充実

金融危機が世界的に深刻化する中、財務基盤の一層の安定化と更なる企業成長を目指すべく、以下の資本増強策を実施。

➤ 優先株式

- 「社債型」優先株式 3,900 億円を第三者割当により国内生損保 7 社に対して割当、11 月 17 日払込を完了。

➤ 普通株式

- 7 億株の新株式発行と 3 億株の自己株式処分による株式売出しについて本日決議。
- 国内及び海外市場におけるグローバル・オファリング、払込は 12 月中旬を予定。

国内外におけるアライアンス戦略について

◇ 成長性確保・収益力強化のための資本活用

- 三菱東京 UFJ 銀行による米国子会社ユニオンバンカル・コーポレーション株式の公開買付けによる完全子会社化 (11 月)
- Morgan Stanley との戦略的資本提携の実施 (10 月)
- アコム株式の公開買付けの実施 (10 月)
- 三菱 UFJ 信託銀行による英国資産運用会社 Aberdeen Asset Management 社との資本・業務提携 (10 月)

以上

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし前提(仮定)は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Report をはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。